



ピクタインダカン

(おきみがりにぼし)

第7号

発行日 2016年12月1日

発行人 矢代 しず

秋田市御野塩7-1-29-305

ことば

詩想をみうしなった男が

ことばの荒れ地に足を踏み入れている

背丈をこすことばの穂波にのまれ

いまにも溺れそうになっている

逃れようと懸命にもかくが

頑固なことばの腕は男をほだす

男はかき分け かき分け

ことばの芒が原を脱する

眼前に広がるアザー・ブルーの空

木炭色のところに

さわやかな秋の光が射しこむ

縛っていたのは

ここに生えたまばゆい翼の陰

男は起伏のある徑こみちにあゆんでいく

徒然のエチュード V

1

1 9 □ 4 13

□に なに入る？

たくましいイマジネーションで
解いてみて！

2

ブナの葉叢を仰ぐ

新緑のグラデーション

森の万華鏡

3

詩とは？

豊かな想像力

あふれる創作意欲

巧みな修辞

わたしの魅力は？

4

池塘に逆さ燧ひうちヶ岳

あの粗々しさも

たおやかな姿で――

わたしの顔もほくほく

5

インプット

アウトプット

インプット

インプット

インプット

体重は減らない！

6

わたしは 滝

太陽の光を受けて

生がほとばしる

7

岩陰から

ひよっこり現れたオコジヨ

岩から岩へ

すばしっこい走り

めんこい眼

ボクも真似て

忍者になる

8

乳白色の裸婦が

ソファーに横たわっている絵

わたしも

心を真つ裸にして

椅子の背に

もたれかかってみる

9

窓の視界をさえぎる

もじゃハウス

秋も深まり

紅葉もじゃに変身

ツタのからまる喫茶店

10

ここで終わり？

あそこで終わり？

マダマダ

グズグズの山路

ニセ頂上で

心の糸がたるむ

目を落とせば

ほんのり草紅葉もみじ

心の糸を張り直し

ガレ場をひたすら登る

11

あの人やけに詳しいけど
専攻はなに？

生物科かな……
裸体科だよ！

12

空から

3 1 4 6 6 2 人の暮らす

秋田市を眺める

そのうちの一人のわたしは

豆粒

13

食欲にスランプなし

詩作にスランプあり

じゃあ 詩を食べたら？

14

目の前の美しい景色を
心に焼きつける

帰宅後

詩を作ろうとしても

画像が不鮮明

静止画像で取り込み

原稿用紙に貼りつけるしかない！

15

山峡のはるかな雲海

ふつくらと盛られた綿飴のよう

やわらかくて 甘い海

心から伸びた触手で

あゝん

16

音の階段を

すばやく駆け上がる

口笛*

余韻はおだやかに心にしみて――

*柴田晶子氏「口笛コンサート」

17

横手と老方おいかたを結んだ

横荘線

45年前に廃線

いまでも耳底に残る

ガタゴト走る音

(横荘コ一番の美女はだれ?)

とおい昔のランキング!

アイタイナア

18

今日

一行目しかできない

翌日

その次の行を考える

明後日

考えて止まって

また進む

さ迷うことばの林を抜け出て

やっと見えてくる詩

19

面倒くさいから

イヤ!

SEXLESSに

安らぐ男女

今時の事情

20

どこまでも続く

深いササ地帯

ボギ ポキ ボギ

枝の折れる音

ドギツ!

熊?

わたしは透明人間

見えません

21

鉛筆一本

紙 一枚

これだけあれば

わたしは何にでもなれる

22

街中のアンケート

——あなたは秋田美人ですか?

——イヤイヤイヤイヤイヤ

違います!

ほんと???

なぜか皆さん

若さと美貌の人ばかりジャン!!

23

鈴

ラジオ

おしゃべり

わたしの熊よけ法

24

おーい

真つ青な空に

呼びかける

おうーっ

美男子の山が

わたしを呼ぶ

幸せ空間!!

25

おさすり医者

も医者

タケノコ医者

でも医者

ヤブ医者

でもしか医者

医者 of 三段活用

26

喜多方ラーメン 15時25分 郡山行 1番線

会津若松駅の電光掲示板

伸びちゃうよ

電車が!

27

書きたいことがいっぱいあつて

原稿用紙から字がはみ出る

まるでわたしのお腹!

28

最初

いじめは

点で起こる

集団のいじめは

面で起こる

29

庭先から見える

新幹線に向かつて

坊やが敬礼

しなやかにそり返る

紅葉の手

秋の陽に舞っている

30

推敲上手は

捨て上手

勇気をもつて

捨てましょう！

31

どうして詩をはじめたの？

皺ができてても詩は書けるからサ

32

長い歳月をかけてできた

岩のまるい穴を覗く

暗闇の向こうから

質朴ないにしえ人の声が

這い上がってくる

33

人が倒れたとき

A 駈けよる

非A 通りすぎる

外からは分かりづらい

Aと非Aの違い

精神の深さ

34

焼きナス 太平山

天ぷら 鳥海山

ざる蕎麦 富士山

サラダ エベレスト

ある日の鱈腹メニユー

36

楽しいから登る

のではなく

登ることが楽しい

から登る

てっぺんを目指すぞ！

35

音を聴く

耳をすませて聴く

クチュクチュクチュ

噛む音

音は もう聴こえない

官能のチューインガム

37

畑の無農薬野菜は

やさしい土の鼓動をきいて育つ

だから

あんなにも喜びの色を浮かべて――

38

ある食堂の張り紙

メニューの横に

チヨモランマ

ダブルチヨモランマ

へ当店ではパンクしても

責任を負えません

40

木道のあちこちに

小動物の糞が！

敵を警戒しながら

用を足したのだから

小部屋にこもれるワタシは

しあわせ！

39

ことばを煮る

濃こくがでるまで

コトコト煮る

やがて

いい匂い

どうぞ 召し上がれ！

41

樹齡三百年のケヤキ

わたしの生まれるずっと前から

この地に――

伐られても

光沢ある床柱に

再生

人は亡くなれば

無？

42

居間の窓から

通りをながめる

車の往来が絶えない道

その両脇につづくケヤキ並木

てっぺんに

まだ夏がとまっている

勿忘草わすれなぐさいろの空に

はぐれ雲がただよう

きょうの風車は

寡黙だ

43

路の下にオナゴ

まんじ きれーだごと

おらの若げどぎど ひとじだな

撮影会での一コマ

44

精悍せいかんで

いかにもクールな感じの山男

急な下り坂で

小石に足をとられ

(あっ

と可愛げな声をあげた

彼は

すぐにとりすまし

スマートにポーズを決めた

わたしは見逃さなかった

膝が笑っているのを！

45

ガスがさつと晴れ

目前に

淡い初恋色の草紅葉

静かに訪れる秋の足音

46

ぼくは

ジイジの膝の上

(バアバとジイジ

どっちが好き？

どっちも！

ぼくはすまして答える

47

御野場に

三度目の秋がきた

いつの間にか

ガランとした淋しさも去り

心静かな風景にとけ込んでいる

空を舞うトンボのように

両手をひろげて

わたしは

いま

御野場と友だちに！

48

今朝

体調を崩して

何度も咳きこんだ

応急手当はしてもらったが

そろそろかな

マイカー

49

瞑想して

ことばを指先から出す

50

分からない

から知りたい

分かるまで

知りたい

トコトントン

51

(今日は そごさ行くな!!
死んだ父が夢に出てきた

途中

タヌキの死骸 一匹

キツネの出没 二回

強まる雨

やがてガスもかかり――

父の言葉が頭をよぎる

あとはクマ?

登山口で思案

中止を決断

アゝア

52

八幡平の雲は
空をさびしくさせる

日も陰り

きょうは

サングラスのメガネ沼

53

白いむくろ軀

痛そう!!

生木を裂かれ

頭をダラリと垂れている

樵の木

54

その文章

ひねりが足りないネ

だって

ウエストがなくなっただんだもの……

55

都会では

雪がふる

東北では

ドカンと雪が座る

56

寅・虎・トラ*

若やかな肉塊の

アームトラ

4匹がお出迎え

見事な縞模様の毛皮にくるまって

すこぶる機嫌がいい

わたしは油彩画のなかに入り

トラの頭をなでてやる

57

飲み屋の看板

ペロペロ

よく目をこらして見たら

パロパロ

あら わたしったらう

58

岩に大量の汗が

滴り落ちる

日照りの中からだは

水を浴びるほど呑んだ

*藤田悦子氏個展より

モシモワタシガ首相ナラ

円高ニモマケズ

米国ニモマケズ

威シニモ命令ニモマケヌ

健康ナカラダヲモチ

私腹ヲコヤサズ

決シテ驕ラズ

イエガラヲハナニカケズ

マスコミノ社長ヲ

イカナルトキモ

高級リヨウテイデ接待セズ

オカシイコトハオカシイトイイ

ニンキ延長ナドトケチナコトハイワズ

スベテノ責任ハコノワタシガ負ウトイウ

東ニ待機ジドウアレバ

スグニ保育所ヲタテ

西ニ原発ニ不安ナヒトアレバ

行ツテ廃炉ニスルト安心サセ

南ニ辺野古ハンタイノヒトアレバ

行ツテダマシウチハシナイトイイ

北ニサイガイヤジシンガアレバ

マツサキニタスケルトイイ

ケンポウカイセイノトキハナミダヲナガシ

サンボンノヤガハズレテハオロオロアルキ

ミンナニアベチャントヨバレ

ウソモツカズ

コクミンカラサクシュモセズ

ダイキギヨウニミツガズ

ソウイウ首相ニ

ワタシハナリタイ

60

きようは市内の陸上競技会

一〇〇㊦のスタートラインに

八人の生徒が並ぶ

両膝にサポーターの少女もいる

ピストルが鳴り

いっせいにスタート

一〇㊦ 三〇㊦ ……

少女のからだだが

左に傾き 右に傾き

コースから外れた

五〇㊦ 七〇㊦ ……

他の生徒はすでにゴールした

少女は諦めない!

転んでも よじれても

一歩ずつ 前へ

場内は無言

熱い視線をおくる

九〇㊦ 一〇〇㊦

ようようゴール

母親の優しさをもらった女性ひとが

すぐさま少女を抱きしめた

秋の陽差しのなかで

61

100歳以上

91人

あと34年で

仲間入り

潤いのことばを食べて

わたしも

生きのいい

ばあちゃんになるぞ!

62

夏は絹

秋は木綿

冬はカシミヤ

春はスフ

63

猫にマタタビ

男にオッパイ

夫婦円満の秘訣

64

やりたいときは やる

やりたくないときは やらない

求められても 絶対やらない

でも 他所でやつちゃダメ!

〈小咄〉

65

窮地に陥ったとき

どん詰まりと考える人は

諦めの早い人

なーんだと思える人は

意気地のある人

66

きみたちは

合せガラスのようだ?

ヒビが入っても

壊れそうで壊れない!

67

原酒に水を入れすぎてた!

泡沫うたかたの酒

68

あなたって過激ね
昔は穏健だったわ

なぜ？

口が滑る……

70

朝刊を読む

思いやりをなくした子供たちが

また苛めを――

いのちを奪いとられた子の口惜しさを

行間に読む

醜さに

こころが沈む

69

だるい

力がでない

リュックを背負って

日常を登るしかないナ

71

リオデジャネイロ五輪の

男子400リレー決勝で

日本は銀メダル獲得

メンバーは4頭の駿馬

無駄のない走りで

スムーズなバトンパス

50年前

(いかにしたら

最短距離で走れるか

バトンをロスなく渡せるか!

監督は

地面に円周率を書き

動線から走者の立ち位置を決め

アンダーハンドパスが最要と

熱く説いた

猛練習が始まった

試行錯誤の末

テクニクは磨かれ
試合に勝った

一本のバトンが
鮮烈に青春を蘇らせた
50年後の夏の日に



【あとがき】

今号は「徒然のエチユード」特集とした。エチユードを書いていると、お腹がすく。文章の切れがなくなるかも知れないと思いつつも、つい手が伸びる。秋だ。

エチユードのネタは、感受のアンテナに引っかけたものを、日ごろからストックしているが、いざ書こうとしてメモを見たとき、へんだつけ？というところが間々ある。そのときのひらめきが戻らず、没になるものも……。

感受性は生きものである。時間とともに印象も刺激もぼやけてしまうからである。

*

チンと電子レンジの音。ほかほかのサツマイモが食欲を誘う。味覚の反応も今がいま。受容の器にこんもりと盛ることしよう。

*

初冬の一夜に、ご覧くだされば幸いです。



72

前方に

ライバルの背中をとらえる

今度こそは！

とひたすら追いかける

横に並び

相手を揺さぶり

ついに追い越す

追う者の優位

73

天下の号令のままに

(右へならえ！)

聞こえてくる ラツパの音

近づいてくる 言論統制

見えてくる 人間破壊

わたしは

コトバに騙されない

反骨のヒトでありたい！